

心豊かな暮らし

<http://www.yabashi.co.jp/house/>

縁_{en}

2014 Vol.33 winter





季刊
縁_{en} 2014 Vol.33 winter

contents

P 3 »

特集

和やかに住まう平屋の家 — 岐阜県岐阜市 K 様邸

P 7 »

矢橋の注文住宅

「悠楽」モデルハウス

P 9 »

FOOD — Vietnam・Korea・Myanmar

ベトナム・韓国・ミャンマーの料理

P 11 »

AGROFORESTRY 余呉農園

連載

中山道赤坂つれづれの記 文 / 故 清水春一 菱田海鷗の詩

心豊かな暮らし

表紙写真：矢橋家牡丹園内 椿

P1 三宜亭2F 応接室

P2 滋賀県長浜市余呉町

For the rich life of the mind



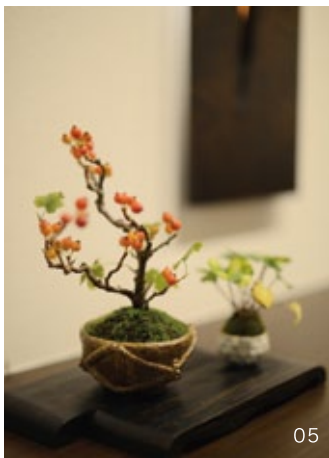


02



01

01 緑あふれるお庭と平屋建ての外観
 02 家族が集まるリビングは、大きな吹抜けの天井が空間を広く見せる。「和」シリーズの落ち着いた色調を気に入っていただいた
 03 K様邸のテーマは「花水木の植わる家」。玄関アプローチ付近にはシンポルの花水木が植わっている
 04 奥様初挑戦の家庭菜園。奥には雨水タンクが
 05 自然の美しさをもち、四季の移ろいを感じる「山野草」は、奥様の友人の作家からお借りした作品。和の雰囲気にとびつたりな山野草は奥様のお気に入り、設けられた飾り棚を彩る



05



04



03

■ 特集

和やかに住まう平屋の家

岐阜県岐阜市 K様邸

K様は、ご主人と奥様、そして社会人の娘さんの3人でお住まい。子どもも大きくなり、夫婦ふたりにとって十分な部屋があれば良いと、平屋の家を選ばれた。平屋建て「和(なごみ)モデルハウス」にて土間に腰をかけた時に、外と中のつながりや、軒の長い屋根、深い色合いの落ち着いた雰囲気を感じたという。

ご主人は一級建築士。建築のプロであるご主人が「家づくりの決め手となったのは、なんと「雨水タンク」。雨水を有効利用して、家庭菜園などに活用している。「分譲地で、すべての家に雨水タンクがあるのを見て、ここまで気を配っている会社なら、安心して任せられるだろうと感じました」とご主人。雨水タンクの側には家庭菜園があり、野菜づくりに初挑戦したという奥様が育てたたくさんの秋ナスが。四季の移ろいを感じられる緑あふれるお庭は、奥様のこだわり。

K様邸は、和室以外はすべて花橋オリジナル無垢フローリング。リビングの窓を開けるとウッドデッキとつながり、爽やかな風が通る。窓際に裸足でごろりと寝転がってくつろぐのが、ご主人お気に入りの時間。



15



09



06



18



16



17



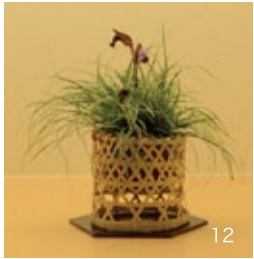
10



13



11



12

06 リビングから繋がるウッドデッキは、ご主人こだわりの空間。軒が長いので、日差しを遮り風がよく通る 07 時には親子並んでキッチンに立つことも。家庭菜園で穫れた野菜で夕食の用意を 08 「和」シリーズの深い色調が印象的な玄関。オリジナル照明の透灯(とうとう)が空間に彩りを添える 09 和室は単なる“座敷”にならないようにと、造作の机を設置。山野草を飾ったり、長女が帰省した際は机として利用できる工夫が 10 パッチワークは、10年程続けているという奥様の趣味。季節のものを作って飾る 11 12 13 奥様の友人が育てているという山野草。お花のある暮らしは、心を豊かにしてくれる 14 平屋建ての外観 15 次女の部屋。全室矢橋オリジナル無垢フローリングで、裸足で過ごすのが気持ちいい 16 奥様が育てている多肉植物がかわいらしく並ぶ 17 勝手口の外にある屋根付きのサービスヤードでは、土のついた野菜を保管したり、外で洗って室内へ入れられるなど使いやすい工夫が 18 家を建てて初めて挑戦したという家庭菜園には、立派に実ったたくさんの秋ナス



営業担当
住宅部 課長 金森善彦

昨年の春、ご主人と初めてお会いした時のことです。「和」モデルハウスにて、リビングの縁に腰かけ、外に繋がる庭先を眺めながら佇んでいらっしゃったご主人の姿が印象的でした。家族が暮らす「家」に求める役割に「休息やすらぎ」を求め、心落ち着く空間を想像されてみえたのだと感じました。リビングから繋がる軒深い縁、そしてそこから見える花水木の植わる庭、そんな癒しの空間を提供するお手伝いが出来たことを大変嬉しく思います。



14



08



07

将来の暮らしの変化も見据えて

仲の良いK様ご家族。休日は家でのおんびり過ごしや、親子で料理を楽しんだり。時には家族揃って旅行に行かれることも。

今後もし娘さんが家を離れても、帰省した際に過ごしやすいうようにと工夫が施されている。例えば、床の間の代わりに造作カウンターを設け、机にも飾り棚にも利用できる和室。お客様が気兼ねなく利用できる来客専用のお手洗いなど。ライフスタイルの変化を想定した平屋の間取りは、K様邸ならではの。



心豊かな暮らし

<http://www.yabashi.co.jp/house/>

矢橋林業

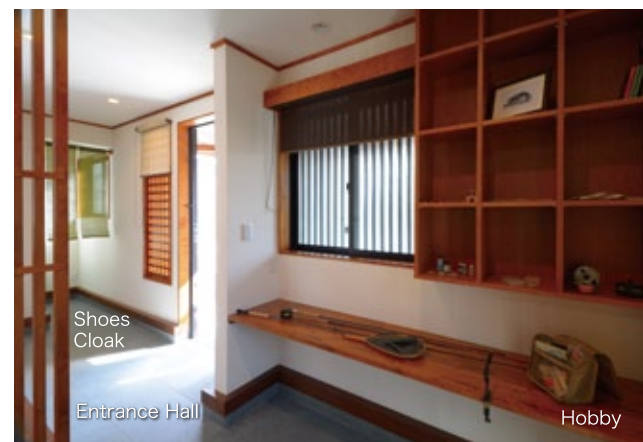
検索

繋がりのお悠 — 外部との視覚的繋がり —

里山の風景を思い描く庭の木々を眺め、四季の移ろいを感じることが出来ます。夏には落葉樹が葉を繁らせ日差しを遮り、涼しい風を。冬には落葉し、光がたっぷりと室内へ入ります。天窓や上部に窓を設けることにより、光や風をうまく取り入れ、自然の力を活用(パッシブエコ)できるようにしています。窓に高低差を付けると、気流が動き風が抜けやすくなります。地窓から見える緑やあたたかい灯りは、外と中を繋げるだけでなく心を癒してくれます。

趣味のお悠 — ゆったりと楽しむ場の確保 —

時には集い、時にはそれぞれの時間を過ごす。ゆらゆらと穏やかに揺れる炎を眺めていると心が癒されます。家族が自然に集う空間。特別な日だけでなく、日常を楽しむ。山荘で過ごした楽しいひとときが毎日の暮らしに。自分の心地いい場所を見つけてください。



Shoes

Cloak

Entrance Hall

Hobby



Study & Play Hall

矢橋の家の理念

人が住むべき緑豊かな心休まる良い環境に、天然素材を活かした日本の伝統を受け継ぐ家に住まう。日本の原風景を取り戻し、日本人が育つ住環境をつくる。

矢橋の家のこだわり

安全 安心 本物 快適 家事 収納 子育 趣味

矢橋林業株式会社

YABASHI
住宅部 〒503-2122 岐阜県不破郡垂井町表佐410-1 TEL.0584-22-0001
品質マネジメントシステムの国際規格であるISO 9001 認証取得企業
宅地建物取引業許可 岐阜県知事 12/1 第1300号 建築業 岐阜県知事 12/1 第1300号 建築業 岐阜県知事 12/1 第1300号

注文住宅・分譲住宅のご用命ご相談はこちらまで。

0120-884-039

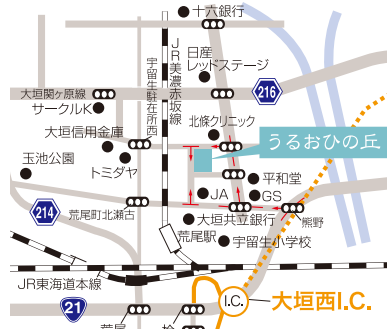
<http://www.yabashi.co.jp/house/>

温故知新

GREEN COURT
荒尾Ⅲ
うるおひの丘

モデルハウスは
こちらでご覧
いただけます。

NAVI
岐阜県大垣市
荒尾町1524-95



YUURAKU MODELHOUSE

矢橋の注文住宅

空間のお悠 — 室内空間の縦横の広がり —

空間が繋がることで家族のコミュニケーションもより深まります。上部にたまりがちな温かな空気は、換気システムにより上下の温度が均一になるため、快適な温度が家中に。部屋を移動する際にも、温度差による体への負担が少なくヒートショック防止にもなります。間仕切りを少なくし、のれんや格子、すだれなどを使用することにより、空気の流れを遮らず、家族の気配を感じつつプライバシーには配慮することができます。



Yabashi Limestone Techs Korea Co.,Ltd.



マ ッ ク グ ク ス
막국수

Korea



すぐに食べられる麺(そば)

韓国北部では昔からそば栽培が盛んに行われてきました。韓国語で「マック」は「今すぐ」という意味で、「グクス」は「麺(そば)」のことを言います。つまり「マックグクス」は、簡単に作れて、すぐに食べられる麺(そば)」という意味なのです。ゆで卵・きゅうり・海苔・ごま等をのせ、コチュジャン・酢・砂糖などで味付けをしたソースと絡めて食べます。



YLTk社員



メミル(そば)チヂミ

YLTkの近くにマックグクスを味わえるお店がありそこには、コチュジャンの代わりに牛肉の冷たいスープをかけてさっぱりと食べる麺もあります。また、そば粉で作った「メミルチヂミ」も絶品です。



Yabashi Myanmar CAD Technologies Co., Ltd.



ラ ファ ャ ャ ャ ャ
လက်ဖက်သုပ်

Myanmar



お茶の葉のサラダ

ミャンマーの伝統的な食べ物で、食材は、お茶の葉、ピーナッツをはじめとする多種の揚げた豆、乾燥させた海老、揚げたニンニク、刻み生姜、トマトやキャベツなどををお好みで混ぜて食べるサラダです。以下の写真の様に、別々で食べる場合もあります。



各種別々に盛りつけられた具材



好みにより具材が異なる

新年によく食べられるお菓子をご紹介します。

ミャンマーでは、毎年4月中旬頃、新年を迎えます。

「ダジャン」という伝統的な「水かけ祭」を行い、旧年の汚れを洗い流し、自分の心をきれいにするという風習があります。

ダジャンは、4日間行われ、伝統的な踊りやご馳走会など様々な催しが行われます。



伝統的な水かけ祭り



お祭りに参加するMyanmarCAD社員

ダジャン(水かけ祭)

ダジャンのご馳走会で食べられるミャンマーのお菓子



モッロンイエパ
黒糖を包んだお餅にココナッツをトッピングしたお菓子



シュエインエー
ココナッツミルクのスープの中にお米、餅、パンなどを入れたお菓子



ダジャン之象徴である花「バダウツ」この期間にしか咲かないためミャンマー人にとって大変貴重な花

FOOD — Vietnam・korea・Myanmar

弊社グループ会社の所在地である、ベトナム・韓国・ミャンマーの料理の一部をご紹介します。



Yabashi Vietnam CAD Technology Corporation



Yabashi White Limestone Mining Vietnam Corporation



カ イ ン マ ン
Canh Măng

Vietnam



乾燥タケノコと豚足のスープ

ベトナム北部の人々にとって欠かせないテト料理が、カインマン(乾燥タケノコと豚足のスープ)です。その他の代表的なテト料理であるバインチュンというモチ米料理、ねぎの漬物やハムなどと一緒に食べます。



VINACAD社員 クックチーム

VINACADでは、クックチームが社員の食事を作っています



マムグークア
(5種類の果物)



金柑の木



桃の花



バインチュン
(モチ米料理)

テトとは？

旧暦によるお正月を旧正月と呼び、ベトナムでは旧正月を「テト」と呼びます。

たくさんの風習があり、マムグークア(5種類の果物)や、金柑の木、桃の花を飾り、カインマンやバインチュンなど、テトのご馳走を作り、祖先に供えた後、家族揃って食事をします。新年が明けると親戚や先生などの家を訪問して新年を祝います。

新年は毎年変動し、2015年は2月19日が新年(旧暦1月1日)となります。



昨年、安全に作業ができたことへの感謝と、今年一年の安全への願いを込めて祈ります

安全祈願

テトの間には行事がたくさんありますが、安全を第一とする弊社にとって、1年の安全を祈る安全祈願は最も大切な行事であり、毎年必ず行っております。



豚の頭は豊かさの象徴としてお供えし、お供え後は、皆で食べます



安全祈願に訪れたVINAWHITE社員



天候により収穫時期が変動する場合がございます。また、数に限りがございますのでお早めにご注文ください。

品種
蓬萊柿 (ほうらいし)

いちじくはアラビア南部原産。蓬萊柿は約370年前に中国から伝わり、「在来種」「日本いちじく」と呼ばれています。

岐阜県大垣市赤坂町の石灰質土壌に適した在来種である蓬萊柿は、地域一評判のいちじくでした。しかし、一般的によく見られるドーフィン(西洋いちじく)と比べ、デリケートで流通し難い蓬萊柿は、あまり見られなくなっていました。

懐かしく、他にはないまるやかで豊潤な甘みのある蓬萊柿を、町の伝統ある名産として取り戻し、皆様にお届け致します。



いちじくジャム
(販売時期 10月～3月)



新米が穫れました！

清んだ空気ときれいな水と寒暖の差がはっきりとした余呉の気候は、米や野菜に最も適した環境です。この美しい風景が美味しい農作物を生み出してくれるのだと思っています。農薬・化学肥料を一切使わず、有機肥料にて栽培した「近江余呉米こしひかり」は、もちもちとした食感が特徴です。手作業で大切に育てたお米です。ぜひ一度、味わってみてください。

土鍋でご飯を炊く 「湯炊き」

二合炊き	米…二合、水…400cc
三合炊き	米…三合、水…600cc

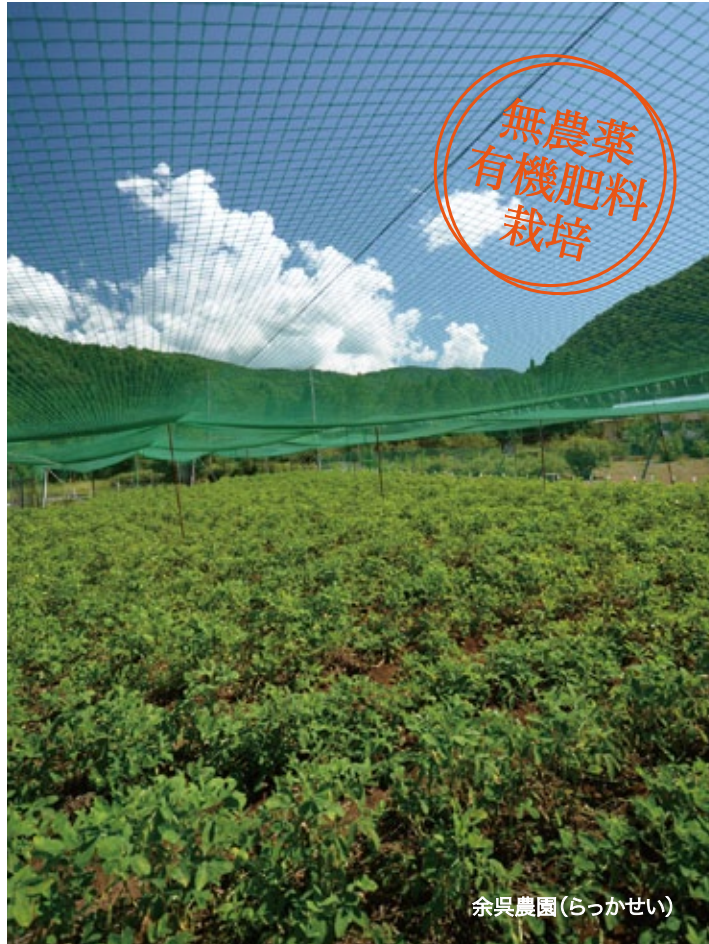
- ① お米を研ぐ。
- ② 1時間程度水に浸ける。
- ③ ざるにあけて、水気を切る。
- ④ 土鍋に水を入れ、強火にかける。(米はまだ入れない)
- ⑤ 強火のまま沸騰してきたら米を土鍋に入れ、ふたをする。
- ⑥ ふたのすき間から泡が出始めたら、中火にして7分加熱。
- ⑦ 7分経過したら、再び強火にして3秒。火を止める。
- ⑧ 10分蒸らす。沸騰してから蒸らすまでふたは開けない。
- ⑨ おいしいご飯の出来上がり。

※IHをご利用の方はIH専用の土鍋をお使いください。



有機JAS認定米





余呉農園(らっかせい)



余呉湖

岐阜県不破郡垂井町にショップがオープンします！

「VEGETABLE SHOP」

お米や野菜の直売。 カフェも併設予定。

YABASHI FORESTRY
AGROFORESTRY

滋賀県長浜市余呉町には矢橋グループの矢橋林業が立木を所有する広葉樹林が有りました。40年程前からその樹木を取得して、山を計画的に伐採して製紙向けの木材チップの生産と矢橋工房の原材料、当初の「矢橋の家」のフローリングなど自社のオリジナル製品の現材料の原産地でした。時代の流れの中で事業は変遷し、嘗ての伐採、チップ製造、建設工事により発生した原木の中間処分の仕事は少なくなり、事業を廃止せざるを得なくなりました。半世紀近くお世話になった過疎化の進む余呉町に対して、町の方々に対して事業が無くなったから撤退しますと言う事で果たして良いのかと思い悩んだ結果、この地で最適で、且つ矢橋グループの将来にとってプラスになるような事業はないのかと考えました。

一方、矢橋グループの三星砒業は将来、採掘している金生山の採掘が進み閉山する時には、赤坂の町の産業の一翼を担っている石灰産業が終焉を迎え、地場産業が無くなる時であり、まさに今の余呉町の現状と近い状況が訪れるかもしれないとも考えました。人口が増加をしていけば固い岩盤を利用し、地震に強い大規模団地に再生する事が可能ですが、現在の日本の人口推移を考えた場合その可能性は低いと言わざるを得ません。高齢化して、過疎化する地域をどうしていくのかと言うケーススタディーをする必要があるのではないかと思います。

今、現存する美しい日本の自然、景色を持った地域の山村で何が出来るのか？

日本がTPPを締結しても世界に勝てる農業、地域の特性を活かしたそこでしか出来ない農業と言うのが有るのではないかと考えました。まさに、温故知新の理念に基づき昔からの名物を復活し、とびきりおいしく、大量栽培の安物ではない、自然な本物の文化に繋がるストーリーのある、そこでしか出来ない作物、そのポリシーはまさに矢橋工房、矢橋の家にと同質のものづくりをする事。つまり、理念をもった理想は将来に繋がり、地域の人が胸を張る事が出来る仕事を創造すると考えました。それが村おこしではないかと考えに至りました。

余呉農園の創業というケーススタディーは鉱山の採掘跡地の再利用のコンセプトを確立する可能性が有ります。我々は理想的な終掘を迎える為に、新たな再利用を実現する為に余呉の再生に取り組む事にしました。

矢橋林業株式会社
代表取締役社長 矢橋龍宜

今なぜ矢橋グループが農業なのか？

日本の美しい原風景の残る滋賀県長浜市余呉町の景色の中で、そこでしか出来ない農業を実現する事は、100年後の石灰石の鉱山が終掘した後の我が町、赤坂町でしか出来ない景色、農業を実現する第一ステップです。また、矢橋工房、矢橋の家、AGROFORESTRYと矢橋の企業ポリシーを伝える品々は、豊かな暮らしの必須アイテムです。



えごま



山かぶら



山かぶら漬



つる豆



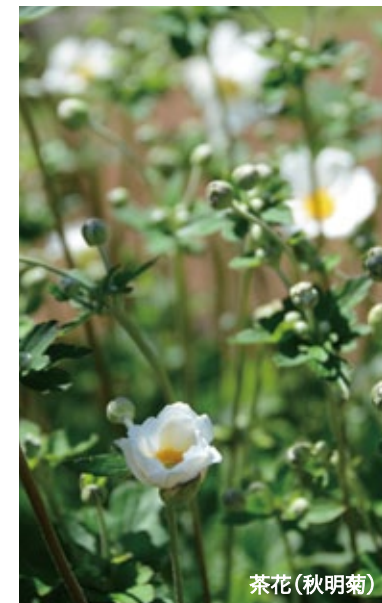
赤ネギ



ひめあやか



金時草



茶花(秋明菊)



十六さげ



ヘタ紫なす



赤皮甘栗かぼちゃ



スティックブロッコリー



らっかせい

お問い合わせ _____

YABASHI 三星砒業株式会社 グリーンコート事業部 AGROFORESTRY 余呉農園
TEL : 0749-86-3021 E-mail : yogo@mail.yabashi.co.jp http://www.rakuten.co.jp/yabashi/

楽天市場出店中!
楽R天
ICHIBA

菱田海鷗の詩

うみゆり連載集 中山道赤坂つれづれの記

故清水 春一

菱田毅斎・海鷗父子を偲びつつ、『菱田海鷗

遺稿集』（昭和三〇一九二八年に書家の百練、大

野鉄之助編集）の中から海鷗が金生山を訪れ

て詠んだ詩を拾い出して、七言絶句一首を先に

紹介しましたが、次の詩は赤坂山からの濃尾

大平野を眺望した感懐というよりも、まさに

眺めた風景そのままを素直に詠じたものです。

戦後の高度成長期以後急速な発展のために、

昔の姿は全く変わってしまいました。戦前ま

では、まだ明治の面影はそのままに残っていま

した。

春の詩二題

この詩に詠われたとおり、金生山からの春の眺めは、誠に大らかで、菜の花の黄色と、梨の花の白と、さらにレンゲの赤、麦畑の青色とが入り交じって、見渡す限りの濃尾平野は、絨毯を敷いたような美しい風景でした。

赤坂山宝光院春望

黄為油菜白梨花

望断大垣城外霞

豆馬寸人山下路

一条春水走青蛇

七言絶句二十八文字に巧みにまとめ上げられて

います。黄色いのは菜の花であり、白い梨の花

とともに見渡す限り、大垣城外に広く遠く霞

んで広がっていて、山の下の道を行く馬は豆のよ

うに小さく、人もまたさらに小さくみえる広々

とした中に、一筋の川の流れば、青大将（蛇）のよ

うに、つねりながら走り、赤坂山の宝光院（虚空

蔵さん・明星輪寺）から眺める春の景色は、本

に素晴らしい、と感慨をこめて詠じたのです。

金生山と、揖斐川と、大垣城と、そして広がる

春霞の中の風物。日常生活の繁忙から、一時忘れ

られた大自然に浸るのも、また味わい深いもの

です。

黄なるは油菜、白は梨花

望断す（見渡す限り）、大垣城外の霞

豆馬寸人、山下の路

一条の春水、青蛇（揖斐川）走る

現代漢詩界の第一人者で皆さんもお馴染み深

い富長蝶如先生も、この詩を読んで、海鷗の人

となりを偲びながら、「素晴らしい」と激賞し

ておられました。

次は宴の詩です。

遊赤坂山 張醺於傘松下

奇巖如展石屏風

張醺傘松円影中

一曲俚歌人醉舞

満頭粧点落花紅

この第二首目の詩は観音閣の詩と同時に、別

の時かわかりませんが、季節は同じ春の雰囲気

が詠じられております。当時の官僚は教養があ

り、学問を勉強したものでなくては表現できぬ

ものを感じさせます。その心は素朴なままに、

自然に融け込んで生きる人間の一時を味わう風

情が、滲み出ているのではないのでしょうか。

赤坂山に遊び、傘松の下に於て宴を張る

奇巖は、石の屏風を展するが如し

傘松の円影の中に宴（酒盛り）を張る

一曲の俚歌（俗謡）人は酔舞す

満頭の粧点す、落花の紅（桜花の色）

自然の中に人世を楽しんだ先人を偲ぶこと

ができます。

申し遅れて恐縮ながら、この菱田海鷗は、元矢橋工業取締役菱田久さんのご先祖です

から、未知のうちはいざ知らず、案外と身近

で親しみを感じていただけるわけです。



右 金生山より濃尾平野を眺望（渡辺仁三氏撮影）

左 海鷗の詩書（屠腹の詩）

苦学して君父の恩に酬（むく）いんと欲し 一灯空（むな）しく伴う卅余年
従容として死に就かんとすこれ今夕 ただ恨む丹心の未だ天に徹せざるを



矢橋林業株式会社